

地域に根ざしたイルミネーションをしよう！

ーブラッシュアップ・ヤマグチー

代表者 池田真一郎（経済B2年）
構成員 藤田真風（人文B2年） 岩瀬陽希（人文B4年） 堂本悠太（人文B4年）
瞿豪（人文B4年） 檜崎桜花（人文B4年）
前川大知（理学B4年） 中村雛子（人文B2年）
他38名

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは「山口市がクリスマス発祥の地」であることを山大周辺地域の方々のみならず、より広範囲の地域の方や山口を訪れた観光客の方にも知ってもらうために企画したものである。例年の山口大学吉田キャンパス正門へのイルミネーションに加え、防長交通(株)山口営業所に協力を依頼し、既に12月の山口市を走っている「クリスマスバス」のパワーアップを行う。一昨年および昨年度の活動においては、山口大学の学生ならびに大学周辺地域にお住まいの方々を主な対象として取り組みを行ってきた。しかし本年度は、より多くの地域住民や関係者に活動の裾野を広げるべく、対象範囲を拡大し、広域的なアプローチを試みた。

2. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、地域住民のみならず観光客にも山口の魅力を再認識してもらうとともに、「山口が日本のクリスマス発祥の地である」ことを広く知ってもらうことを目的としている。昨年度までの活動を通じて、山口大学の学生をはじめとした学生層には一定の認知が広がっていることが確認できた。

そこで本年度は、これまでの学生中心の対象から、地域住民および観光客へと対象を拡大し、より広範囲なアプローチを試みた。特に観光客を対象とした背景には、「ニューヨーク・タイムズ紙」において山口市が「2024年に訪れるべき場所」第3位として紹介されるなど、今後観光客の増加が見込まれるという点がある。

観光客にアプローチすることで、山口の魅力をより広く発信することが可能になると考えた。その手段の一つとして、地域住民や観光客が日常的に利用することが見込まれるバスを活用し、車内外をイルミネーションで装飾する取り組みを企画・実施した。

3. 活動方法

昨年度に引き続き、本年度も主な活動場所として、山口大学共通教育棟の教室および山口市平川地域に所在する賃貸アパートを使用し、各種活動を実施した。活動頻度としては基本的に月・金とし、週に2回活動を行った。また、各種相談やミーティングなどは自主活動ルームを利用させていただくこともあった。その他やり取りは基本的にメールや電話を利用した。

4. 主な活動内容

本プロジェクトは主に以下のとおり、山口大学吉田キャンパス正門イルミネーション、クリスマスバス装飾の二つの活動に分けられる。

4. 1 山口大学吉田キャンパス正門イルミネーション

点灯期間を2024年12月2日（月）～12月25日（水）までとし、点灯時間を17時～21時までとして、様々なイルミネーション装飾を施した。

以下、準備期間・点灯期間・撤去期間に分けて活動内容を記していく。

4. 1. 1 準備期間

準備期間においては、主に(1)イルミネーションの装飾内容の決定、(2)材料の発注、(3)イルミネーションの加工、(4)イルミネーションの取り付けを行った。

(1) イルミネーションの装飾内容の決定

イルミネーションの装飾内容の決定では、8月～10月ごろ共通教育棟教室や契約している賃貸アパートを利用して話し合いを行った。話し合いの進め方としては各々でどのようなイルミネーションをやりたいか、どのようなコンセプトを持たせたいかなどの案を考え、それらの案に対して、「実現可能か」、「実現するとしたらどのような材料を使うのか」、「製作期間はどのくらいか」などの具体的なところを考えていった。そして最終的にはネットライト（植え込み、木の下）、ストリングライト（木に巻き付けるもの）、投光器（大学石碑・横断幕を照らすもの）、インフレーターブル雪だるま（内部にLEDライト）、ペットボトルツリー、文字オブジェ、ハートのオブジェ、ボール型イルミネーション、山口のSL・山口大学のキャラクター「ヤマミィ」のデザインのイルミネーションに決まった。

(2) 材料の発注

最終的な案が決定した後はそれぞれのイルミネーションの材料の発注に取りかかった。若干の遅れが発生したが、およそ10月中旬から11月上旬のうちには発注作業が完了した。

(3) イルミネーションの加工

本プロジェクトに割り当てられた予算内で上記のイルミネーションを完成させねばならず、どうしても最安値の商品になってしまい、防水加工等が不十分であったため、自分たちで防水作業を行った。



(防水作業の様子)

また、SL・ヤマミィのデザインのイルミネーションに関しては昨年まで使用していたものを新調したためそれらの加工作業を行った。その他にもハートのオブジェの枠の部分（イレクター）の加工作業やボール型イルミネーションの加工、ペットボトルツリーの加工なども行った。

(4) イルミネーションの取り付け

イルミネーションの取り付けは11月下旬から急ピッチの作業で行った。最初に木に巻き付けるストリングライトから取り付けを行った。



(木に巻き付けるストリングライトの取り付け)

木に登る危険を伴う作業のため、常に木の下に人を配置するなど安全面を徹底しながらの作業を行った。一方で安全面を気にしつつも見栄えをよくするために、なるべく高い位置や枝の先までライトを巻き付けることを意識した。ストリングライトと並行して植え込みにネットライトを取り付けた。ネットライトは風などにより飛んでいかないように、また、風であおられた際に断線してしまわないように固定した。そのほかのイルミネーションについては出来上がったものを正門に運び込み設置した。

4. 1. 2 点灯期間

点灯期間においては、主に(1)各イルミネーションの点検、(2)電源が届かない場所に使用したバッテリーの残量確認を行った。

(1) 各イルミネーションの点検

イルミネーション点検チェックシートを用いて各イルミネーションに不備や異常がないか点検した。

(2) 電源が届かない場所に使用したバッテリーの残量確認

消灯(21時)の時点でバッテリーの残量が50%を切っていた場合、充電し浴室の17時までにもとに戻していた。

4. 1. 3 撤去期間

撤去期間においては最初に目に見て目立つもの(ハート形のオブジェ、ペットボトルツリー、雪だるま、横断幕、SL・ヤマミィのデザインのイルミネーション)を中心に撤去を行った。これらは固定に使用したものを外す作業のため比較的スムーズに終わったが、大きさがあるため持ち運びに苦勞した。現在は無事に契約している賃貸アパートに保管している。次に取りかかったのは、ストリングライト・ネットライトの撤去である。ネットライトは固定に使用したものを外せばよいので比較的簡単にできたが、ストリングライトは取り付け時と同じく木に登りながらの作業であったため危険を要した。常に1つの木に対して2人以上を配置し、安全管理を徹底した。

4. 2 防長交通山口営業所「クリスマスバス」装飾

防長交通山口営業所様にご協力いただき、例年12月に走行している「クリスマスバス」の装飾を本プロジェクトにて行わせていただくことが出来た。この「クリスマスバス」は例年12月に走行しておりバスの内部をクリスマス仕様に装飾していた。本プロジェクトではこの「クリスマスバス」をよりパワーアップさせることを目標として取り組んだ。主な取り組み内容としては、先ほど記した山口大学吉田キャンパス正門イルミネーションと同じである。

4. 2. 1 準備期間

準備期間においては、主に(1)イルミネーションの装飾内容の決定、(2)材料の発注、(3)イルミネーションの加工、(4)イルミネーションの取り付けを行った。

(1) イルミネーションの装飾内容の決定

話し合いの進め方は山口大学吉田キャンパス正門イルミネーションと同じため省略する。最終的な案としては、動く雪だるま、提灯型イルミネーション、天井にぶら下げるイルミネーション、これらに加えてその他装飾も行うということで案だしは終了した。

(2) 材料の発注

山口大学吉田キャンパス正門イルミネーションと同じため省略する。

(3) イルミネーションの加工

バスの車内のため防水作業は必要なかったが、各イルミネーションの加工を行った。動く雪だるまについては本体に発泡スチロール、固定に木の板など使用した。



(雪だるま製作の様子)

提灯型イルミネーションは乗客の邪魔にならないようになるべく高い位置に設置する・小さくするという条件のもと加工を行った。天井にぶら下げるイルミネーションについては、乗客の邪魔になりかねないという理由から設置が危ぶまれたが、ネットを付けて垂れないようにするという条件のもと加工を行った。

(4) イルミネーションの取り付け

イルミネーションの取り付けに関しては走行日の前日の11月30日で行うことが出来ず、急ピッチの取り付け作業を行った。それぞれ安全面を第一に考えながら見栄えをよくするように工夫して取り付け作業を行った。

4. 2. 2点灯期間

点灯期間においては、異常等があれば報告していただく形をとり、12月1日～12月25日の期間、市内を走行していただいた。

4. 2. 3撤去期間

撤去期間においては、12月26日のクリスマスバスの走行終了日の翌日に撤去作業を行った。

5. 反省点

本年度の活動を通じて、いくつかの課題が明らかとなった。まず、イルミネーションの装飾に使用する資材の発注が一部遅れたことにより、製作・取り付け作業がタイトなスケジュールとなり、メンバーの負担が大きくなってしまった点が挙げられる。来年度以降は、スケジュール管理をより厳密に行い、余裕をもった計画立案と実行が求められる。

また、安全管理に関しても、木に登っての作業やバス内での高所作業など、危険を伴う場面があったため、事前のリスク管理や必要な安全対策の徹底が必要であると感じた。

さらに、外部関係者との連携において、情報共有や進捗報告がやや不十分な場面もあったため、今後はより円滑なコミュニケーション体制の構築を図っていきたい。

6. 感想

本プロジェクトを通じて、「山口がクリスマス発祥の地である」という地域の誇りを多くの方に伝えることができたことは、非常に大きな達成感をもたらした。学生主体で企画・準備・実施までを行う中で、チームで協力しながらひとつの形を作り上げる経験は、貴重な学びとなった。

また、地域住民の方々や観光客の方からいただいた温かい言葉や笑顔に触れ、私たちの活動が少なからず地域の活性化に貢献できたのではないかと実感を得ることができた。

今回の経験を通して得た知見や反省を今後の活動に活かし、より多くの人に山口の魅力を伝えられるよう努めていきたい。